

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4170500021
法人名	社会福祉法人鶴丸会
事業所名	グループホーム ユートピア
訪問調査日	平成 19年 10月 18日
評価確定日	平成 19年 11月 27日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
**[取り組みの事実]**  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
**[取り組みを期待したい項目]**  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
**[取り組みを期待したい内容]**  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4170500021
法人名	社会福祉法人鶴丸会
事業所名	グループホームユートピア
所在地	佐賀県伊万里市大川町大川野1647 (電話)0955-20-8055

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成19年10月18日	評価確定日	平成19年11月27日

## 【情報提供票より】( 19年 10 月 1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 8月 1日				
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人		
職員数	8 人	常勤	8 人, 非常勤	人, 常勤換算	7.75 人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 1階建ての1階部分
------	-----------------

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	250 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	一日あたり 800円			

## (4) 利用者の概要( 10月 1日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名	
要介護1	4 名	要介護2	2 名			
要介護3	2 名	要介護4	名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	81 歳	最低	73 歳	最高	89 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	山元記念病院 福田歯科医院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園風景の中にデイサービスの建物と隣り合わせで建てられている。交通量も少ない環境の下、利用者の散歩が1日に二回行われている。皆足腰が比較的元気で殆どの方が散歩に出かけ、機能低下防止に配慮されている。
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 運営推進会議を開催することを一番の目標に上げ取り組んできた。まずは開催するところまでは実現をしたが、次へ繋げる内容で会議を活かす取り組みが期待される。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員を育てる取り組みの中で研修会は数多く計画されているが、誰もが参加しやすい場所や時間帯に考慮し緊急時対応のいろいろなシミュレーションを行ったり、すぐに役立つマニュアル作りも期待される。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) まず参加者の確保が必要である。地域のかたの参加を呼びかけ、内容はホームの利用者に関することだけではなく地域にも還元される内容を盛り込む等、協働できる組織作りを期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族同士が話し合う場を作る事も期待される。個人の意見が出しづらい事にも配慮し、事業所主導ではなく、家族が自主的に活動できるような支援も期待される。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域にある社会資源の場を利用したり、地域から必要とされる場所になる事を期待する。事業所と地域の人々が共に支えあうような双方向関係の一層の充実を期待したい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの周りに人家が無く地域との繋がりが少なかったため、まず意識の中で管理者が率先し関わろうという考えを持って取り組んでいる。言葉としては変わらないが、地域の中で「その人らしく」を大切に考え取り組み始めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定例会議やミーティングなどでも理念を踏まえ、日常のケアに反映させている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域でまだまだ知られていないことを意識し、広報誌を地元で全戸配布している。また地元の職員を通じて情報を収集し、地域を知る努力を行っている。これからは今以上に積極的に地域行事などに参加することを期待する。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を活かし運営者も巻き込みながら、改善への取り組みがなされている。また職員にとって情報を聞くことで刺激を受け、新しい発見やマンネリ化を防ぐ機会となっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事例などを挙げて話し合い、意見など記録しているが、地域からの参加者が少ない状況にある。	○	地域との繋がりを築いていく足がかりとするためにも、地域の方の参加を増やしホームの理解を広げ、幅広い情報を聞いたり、ホームからも地域に対し、協力できる事で参加するなど支え合う関係を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1回のコミュニティケア会議で市の担当者はもちろんいろいろな事業所の方と話をする機会がある。その中で他の事業所の事例などを聞いて質の向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に広報誌を発行し、来訪時には個別に情報を伝え必要に応じて電話での報告も行っている。預かり金の報告は利用料の請求書に個々の出納帳のコピーを同封し確認を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常から職員と家族が話の出来る関係が出来ていて、何かあれば何時でも気付いたときに伝えて貰っている。常に管理者か管理者代理が対応できる職員配置を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は多くないが、どの職員にも慣れていて異動があっても利用者への影響はみられない。1ユニットで職員の半数がホームが出来た当初からで、新しい職員の紹介をしても自然なかたちで馴染んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1ヶ月毎に法人内外の研修会の日程が生まれ、自由に参加できる。日程を調整しながらいろいろな勉強が出来るシステムである。参加者による分かりやすい記録を残し、口頭での伝達だけでなく再度簡単に見直しが出来るとの保存が望まれる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症グループホーム協会で行われている視察や見学会への参加をしたり、他の事業所のデイサービスと職員交流を行ったりして質の向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に職員が面接し話を聞いたりホームへ来ていただき、本人や家族に納得していただいた上で入居を決定している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	買い物に同行して貰ったり、洗濯物を協力して干して貰っている。利用者の知識を提供して貰い、野菜作りや花を育てたり除草作業にも取り組んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何がしたい、何を食べたい、何処へ行きたいなど本人の意向を引き出す努力をしているが、なかなか引き出せないときはいくつかの例を挙げ選択して貰っている。日常の会話や家族からの情報で好みを把握し、確認しながら話題を広げている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定例の会議で利用者の情報を交換し、職員間で共有している。日勤と夜勤の引継は記録を読み上げ、切れ目のない対応の中で気づきなどを介護計画に反映させている。またカンファレンスを家族と一緒に計画するなど、質の向上への話し合いが日常的に行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の日常生活での状態を月に一度チェックしそれぞれの変化を職員間で把握して、状況によって話し合いを持ち介護計画の見直しに繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	基本的に病院への送迎は家族で行って貰っているが、緊急時や家族が行えないときには職員で対応している。菓の受取なども臨機応変に職員が支援することもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医での受診を優先している。送迎も基本的には家族で行って貰っているが、不可能な場合は職員が代行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化に伴い本人や家族が不安にならないよう相談できる体制はある。ハッキリした意思確認はしていないが、医師などと連携を取り支援するよう話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の共通理解が必要な事項であるため、ホームの勉強会で取り上げている。写真なども家族の了解を得て、広報誌などに載せている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝早く起きて草取りをされたり、自分で好きな洋服に着替えたりして1日が始まり、散歩に出かけたり買い物に出かけ食べたいおやつをそれぞれ購入し食べたりもしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来ることで準備を手伝ったり、片付けに参加したりしながら全員で同じ物を一緒に食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	二日に1度の入浴が基本になっているが、汗をかいたりその日の状況で臨機応変にシャワーなどで対応している。希望で連続に入ることも可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分から進んで除草作業をされたり、お盆ふきや洗濯物干しを手伝ったりされている。また皆でカラオケを楽しんだり、静かに雑誌を眺めたりしている。居室の掃除も出来る方は、職員と一緒にやっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気がよく過ごしやすい気候の時は、本人の希望であるが昼食前と夕食前に散歩に出かけている。買い物や外食なども計画され、殆どの方が参加されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	遅出の職員が帰るまで施錠することがない。居間からも外へ出られるが日中は開放している。安全には配慮しているが、自然なかたちで生活されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練は消防署にも協力を得て行っている。また1ヶ月に一度避難訓練の手順を確認している。	○	職員だけの指導の限界を踏まえて、地域の方々の協力が実際に得られるよう日ごろからの協力体制と、一緒に訓練を行うなどの取り組みも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の量の確認や、水分を十分摂取するため急須を各テーブルに置きお茶を一人2杯ずつ飲む習慣にしている。調理担当の職員を専門に置き、調理に関わる研修などには積極的に参加している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間のテーブルには季節の花が活けられ、玄関周りにも家庭を感じさせる花がプランターに植えられている。ホームの周りが田畑で稲刈りが見られたり、遠くの山が見えたり心穏やかになる環境である。脱衣場がきちんと片付き、ゆったりした時間が過ごせる場である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとり個性が感じられる居室となっている。椅子や小さなテーブルを置いたり、仏壇や小物入れを持ち込んでいる。居室の窓際で布団を干したり自由な空間である。		